

第1回賀茂大橋デザイン検討会議 摘録

日 時：平成27年1月20日(火) 19時00分～20時40分

場 所：職員会館 かもがわ 2階 大会議室

出席者：委員・・・10名全員，傍聴者・・・4名

議事内容

1 開会

- ・出席者（委員及び事務局）紹介

2 事務局より資料説明

- ・議題1 デザイン検討の概要

資料	5, 6
----	------

の説明
- ・議題2 デザインコンセプト

資料	5, 6
----	------

の説明

3 意見交換

- 委員
- ・武田五一氏の「構造物が新しい景観を造る，自然ともものが調和して景観を造る」という考えを踏まえ，鴨川に合い，皆様に愛される橋にしてもらいたいと思う。
 - ・景観の項目について，橋詰空間も重要な要素と考える。京都府との調整が必要で難しいかもしれないが，検討してほしい。
 - ・北大路橋改修の際に，西詰の南側で，橋と一体化するデザインの広場を造り，そこからすぐに川に下りられるようにした。また，「景観を楽しむ」という場所を造ることを目的としてバルコニーを設置した。
 - ・賀茂大橋で特に気にしているのが，東詰の北側が，地下線（京阪電鉄）の出入口があるため歩道が狭くなっていて，危険なことである。調整があり難しいかもしれないが，何とか広げられないか。
 - ・事務局から説明があった高欄，照明，そして桁の塗装色も重要である。桁の塗装色は，三角デルタから橋が全望できるため，非常に影響が大きい。若い人たちもたくさん集まるので，古さの中に新しさが宿る斬新な橋色にしてもらいたい。
- 事務局
- ・北大路橋の橋詰広場については，同時期に京都府も北大路橋周辺の鴨川河川敷公園を整備する計画があったため，本市と京都府で連携し，スムーズな整備を進めることができた。
 - ・賀茂大橋周辺については，鴨川河川敷公園の整備予定はないと思うが，再度京都府に確認してみる。
 - ・北大路橋では，橋桁の改変を必要とせず，違和感なくバルコニーを設置できた。
 - ・賀茂大橋でのバルコニーの設置は，現況の橋の構造上，橋桁を大きく改変する必要があり，鴨川デルタから見たときの橋のシルエットが変わる。
 - ・東詰北側の交差点の改良についても，スペースに余裕がなく困難ではないか。

次回会議までに何か改善できる方策はないか検討してみる。

- 委員 ・特に朝は学生が多いので、歩道をわずかでも広くできないか。また、東詰の北側は、歩道が狭いうえに横断歩道があり、自転車が来ると非常に狭い。隅切りをつけられないか。
- 事務局 ・橋本体を拡げることは、構造的に難しいが、今回の工事で車道の幅員を見直すため、歩道の幅は30cmほど拡がる。ただ、その幅の中に車両用防護柵を新たに設置するので、結果的に歩行スペースとしては8cm程度拡がる予定である。
- 委員 ・親柱が横断歩道からの見通しで目隠しとなるため、死角ができる。自転車が猛スピードで走行してきたら本当に危険である。歩道を拡げて親柱をもう一つ動かせたら良くなると思う。
- 委員 ・その場合、ブラケットの改変か、桁を増設する必要があり、厳しいのでは。
- 委員 ・親柱を橋の内側（西側）に移動できないか。そうするとスペースができ、少しは緩和できるのではないか。親柱が桁の上に載っている例を見たことがないので難しいかもしれないが、補強すればできないことはないかもしれない。
- 事務局 ・現地確認を行い、検討してみる。
- 委員 ・京都の橋は、石で造られ、神社建築の欄干をモチーフにしたものも多い。川を跨ぐことは、その神社の聖域に入る、聖域に対して渡って行くといった意味合いがあり、お祭りの舞台にもなる。
- ・そういう意味で、金閣寺の参道の北大路橋や下鴨神社の参道の河合橋などは、神社の建物や参道のイメージがデザインされている。
- ・賀茂大橋の石製高欄は、縦棧で非常にシンプルなイメージとして造られている。
- ・神社のイメージを強く出しているというよりは、コンセプトに書かれているように、周りの緑や下鴨神社の糺の森、比叡山や鴨川の合流部などの風景を主役にし、橋を脇役にしていると思う。
- ・デザインをシンプルにし、脇役に徹することで、周囲の景観を強く表現していると思う。
- ・そういう精神性や形のイメージを含めて、地域に馴染んだ風景を演出するという考え方がデザインの基盤にあると理解している。
- 事務局 ・地域に馴染んだ風景の継承ということをコンセプトに、検討を進めていきたいと考えている。
- 委員 ・西詰については、以前、賀茂大橋から葵橋の間の鴨川河川敷公園の整備を京都府と地域住民と学識経験者の皆様と一緒にいった。
- ・全体的な景観がどうなるかは大事なことと思う。コンセプトに「重厚」とあるが、私から見ても、重厚で、かつ広い。それらを残すことが重要だと思う。
- 委員 ・広場等が難しいようであれば、京都府で設置している鴨川ギャラリーをこの場所でも設置できないか要望することは可能かもしれない。他の橋の鴨川ギャラリーでは、天井（橋桁部分）に目隠しなどを張り、照明を設置している。
- 事務局 ・賀茂大橋の鴨川ギャラリーの整備予定や内容について、京都府に確認する。
- 委員 ・武田五一氏のデザインの特徴として、ブラケットが挙げられる。ブラケットが

なければ、橋桁がものすごい高く、威圧的に見えるのだが、ブラケットがあることにより、綺麗でかつスレンダーに見える。

・支承も縦縞を入れたようなデザインであり、橋脚にまで凹凸をつけ、かなり手間がかかっている。

・非常に景観に凝った名作である。確かに高欄はシンプルだが、全体を考えて設計されている。

事務局 ・今回の補修工事では、桁のブラケット、支承の形、橋脚の凹凸についても、しっかり形を継承していく予定である。

4 事務局より資料説明

・議題3 デザイン検討対象施設 石製高欄について 資料 5, 6の続き

5 意見聴取

委員 ・軽くて丈夫な橋に補修するものと考えており、石の高欄はイメージになかった。
・10cm 嵩上げて1m10cmの高欄にすると重くなり、耐震補強が大掛かりになるのではないか。

・橋ができたときは灯籠の灯りで歩行者を照らしていたが、今回は歩車道境界に道路照明を設置するため、灯籠は飾りとなる。重たい灯籠を残しておく必要はないと思う。地震のときを考えれば、軽くした方が良いと思う。

事務局 ・石製高欄を10cm 嵩上げた場合でも、阪神淡路大震災や東日本大震災クラスの地震に対しても耐震性能を確保できるよう設計ができています。

・石材の専門家に聞いたところ、現在の高欄の石は、今ではなかなか手に入らない、瀬戸内海産の非常に価値のある石だそうである。その石をなくすと、先人から受け継いだ財産がなくなる。この財産を最大限活用するのが望ましいと考える。

委員 ・コンクリートは劣化するので、嵩上げは石の方がよいと思う。

事務局 ・北大路橋では、延長が長く、石で嵩上げすると費用がかかるため、コンクリートで10cm 程嵩上げており、その上に擬石調塗装を施している。

・賀茂大橋についても嵩上げを考えており、御影石で嵩上げする案と、コンクリートで嵩上げする案を提案した。

委員 ・コンクリートは雨で汚れて黒ずむものだが、北大路橋はコンクリートで嵩上げたうえに擬石調塗装を施しており、5年以上たった今見ても、ほとんど汚れていない。塗装の状況さえ良ければ、見た目には石に近い状態を保つことができると思う。

委員 ・石製高欄を磨くとどうなるかは北大路橋を見てもらったらわかると思う。非常に貴重な石なので、守っていきたいと思う。

事務局 ・嵩上げる材質は別として、現状の石製高欄を嵩上げするという形で高さ1.1mにしていきたいと考えている。

・次回、北大路橋の具体例を示しながら、擬石調塗装を施したコンクリートで嵩上げをするのか、石で嵩上げをするのか、引き続き意見を伺いたい。

6 事務局より資料説明

- ・議題3 デザイン検討対象施設 車両用防護柵について 資料 5, 6の説明

7 意見交換

- 委員 ・材質，支柱間隔は？
- 事務局 ・材質はアルミで，支柱間隔は2mが基本となる。
- 委員 ・石製高欄の場合，少し当たっただけで高欄が落ちるので，不安を感じる。河合橋でも去年のゴールデンウィーク中に車が当たり落ちた。賀茂大橋は直線の橋なので大丈夫かと思うが。
- 事務局 ・賀茂大橋も，石製高欄が落ち，新材に変えた跡が何箇所かある。
・歩道と車道の間車両用防護柵を設置する予定で，車が当たってもこの位置で車は止まり，歩行者の安全性も向上する。
- 委員 ・鴨川を下って大阪湾まで行ったことがあるが，地元へ帰ってくると，風景に馴染んでいるためかほっとする。これは賀茂大橋の美しさと，威圧感がないことによると思う。
・車両用防護柵の提案の2, 3, 4番目の案は，大きい車両がよく通るような，淀川の下流の方の橋でよく見る。1番目の案が，賀茂大橋にいちばん溶け込むようなデザインと思う。
- 委員 ・1番目の案の「アスレール」(製品名)は，景観を意識して開発されたもので，土木学会の景観デザイン賞の奨励賞を受賞している。繋ぎ目等の凹凸を極力少なくし，縦棧を丸くして触ったときに柔らかく感じさせる等の工夫が凝らされている。
・石製高欄の白色とアスレールの色が喧嘩せず，調和が取れている。これがもう少し黒いと石製高欄の白い背景に別の線が重なって出てくる。そういう点からも，この4案の中ではアスレールが良いと考える。
- 事務局 ・委員の皆様から「アスレール」が良いとの声をいただいたので，アスレールを基本として今後検討を進めていきたいと考える。

8 事務局より資料説明

- ・議題3 デザイン検討対象施設 道路照明について 資料 5, 6の説明

9 意見交換

- 委員 ・京都市の景観規制の中で，眺望景観規制というものがある。賀茂大橋の位置では，大文字山の大的の眺望を照明灯や建物等で阻害しないようにとの規制がある。
- ・B, C案と比べると，A案はアームが出ているので，眺望景観の規制からみれば，若干不利な状況にある。

- 委員 ・最終的には京都市美観風致審議会にて審査される。
- 委員 ・最初はB案がいいと思っていたが、C案の方がいいと思う。
- 委員 ・賀茂大橋周辺は、ハトが多いため、ハトがアームや灯具の上にとまることによる鳥の糞害が懸念される。C案が最もハトがとまりにくい形状と思う。
- 委員 ・この付近は、トビ、カラス、ハトが非常に多い。糞害のことで将来的に苦情が出ないように考えないといけない。エサをあげている人が相当いて、多い時には一度に50,60羽来ている。
- 委員 ・B案はすっきりして良いと思う。A案はアームが出ているところが気になる。ハトの糞害を考えたら、C案が良いとも思う。支柱の形状については、八角形は縁起が良いし、円形も良いし、決めかねる。
- 委員 ・主張しないという点でB案が一番良いと思う。
- 委員 ・市電の架線柱には円形のものや八角形のものがあつた。八角形にすると、柱に縦の線が入り、折れたところで陰影がつくため、円形の柱より細く見えると考えられる。意匠的にも、八角形の柱の方が印象的である。
- 委員 ・B案を八角形の柱にすることはできるのか。
- 事務局 ・できる。
- 委員 ・この照明は歩行者のためのものか、自動車のためのものか。
- 事務局 ・自転車が非常に問題になっている。先日も家庭裁判所の前で事故があつた。明るさもきちんとしないと事故の原因となりかねない。
- 事務局 ・全体が同じ明るさにはならないが、一番暗いところでも基準値以上の照度となるように設計をしている。
- 委員 ・高さは決まっているのか。
- 事務局 ・灯具の位置で約10mを予定している。
- 委員 ・現状の灯具は下側が丸いが、今回の灯具は水平か。
- 事務局 ・水平となる形で検討している。
- 委員 ・下側が丸い灯具は、鴨川を晩歩いていると光が目に入り、オレンジ色にしても、すごく明るく見える。水平であればそうは見えないと思う。この橋の下流辺りから蛍が生息しているので、少し暗さも必要と思う。
- 事務局 A案はアーム部に鳥がとまり、糞害の問題があるため、B案、C案が良いとの意見が多い。次回はB案で柱が八角形の案も作成して提案したい。

10 閉会

次回の開催時期及び予定の議題を確認し、閉会した。

(以上)